



東北大学 創立 115 周年・総合大学 100 周年 記念展示
 主催 東北大学 総合学術博物館・大学院理学研究科・史料館

小川 正孝 その研究と生涯

Masataka OGAWA
 His Research Achievements and Life



2022 年
 10 月 1 日 (土)
 ~11 月 6 日 (日)

会場
 理学部自然史標本館
 2 階特設コーナー *

* 入館料及び開館時間、休館日は
 こちらの QR コードからご確認ください

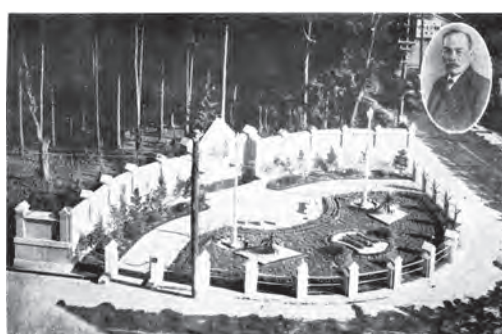
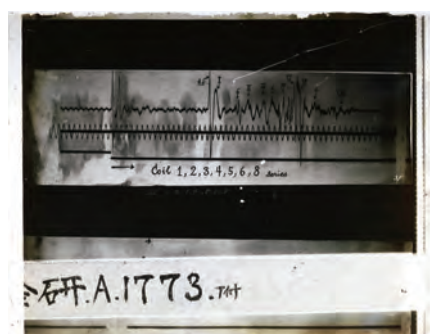


100 年前の 1922 年、東北帝国大学に法文学部が設置されました。大学創立から 15 年目を迎え、ついに総合大学としての体制が整います。小川正孝第四代総長の時でした。

小川正孝 (1865-1930) は、帝国大学 (後の東京帝国大学) で学び、苦勞して化学者の道を進み、1911 年に新設の東北帝国大学理科大学に赴任します。1919 年には、初めて学内から選ばれた総長として第四代総長に就任しました。

小川は、イギリス留学中に発見した新元素を、帰国後の 1908 年に「ニッポニウム」として報告し研究を続けます。しかし、「ニッポニウム」に関するその後の検証は難航し、想定した原子番号 43 には別の元素が発見され、テクネチウムと命名されます。小川の遺した X 線写真乾板の検討から、「ニッポニウム」が原子番号 75 のレニウムであると判明したのは 2003 年のことでした。

小川は、新元素の追求に挑んだ研究者であると同時に、東北帝国大学第四代総長として、総合大学の礎を築いた人物です。本展示では、その研究と生涯を振り返ります。



掲載写真 上段：理科大学 化学科教授研究室 / 大正 2 年 (1913) 頃
 下段 (左から)：「ニッポニウム」の X 線スペクトルを撮影した写真乾板、功績を顕彰して造られた小川記念園 (片平地区)、小川使用と伝わるルツボ